



支えあうコミュニティ 持続可能な未来へ

武蔵野市議会議員

# 内山さとこ



活動報告 2015 春号 No.25

内山さとこ&のびのび歩む会  
〒180-0012 武蔵野市緑町 2-3-A7-501 TEL 080-3758-1057 Email satochi@y8.dion.ne.jp

## 集まれ！市民力

- 子育ても介護もひとりぼっちにしない  
**支えあうコミュニティ**
- 年を重ねても障がいをもっても  
**「おひとりさま」で自分らしく暮らし続けるまちに**
- すべての子どもたちの命と育ちを守り  
若者が希望をもてる社会に  
子育てファミリーも高齢者も  
安心して暮らせる住みやすいまち
- 省エネ&創エネ 原発ゼロ **持続可能な未来へ**
- 玉川上水、井の頭公園、独歩の森を  
**「水と緑のまち遺産」に**
- 地産地消 都市農業と農地を守り食の安心安全を  
**「吉祥寺ルネッサンス」懐かしくて新しい文化のまち**
- 武蔵野から平和を  
**市民が自治する「市民の政府」へ 自治基本条例を**
- 市民に開かれた議会へ **議会基本条例を**

武蔵野市の特徴のひとつは、ひとり暮らし世帯が半分を占めること。しかも 65 歳以上の世帯が 1 割以上で、今後ますます増え続けると予測されています。これからの福祉は「おひとりさま」で暮らすことが標準となります。

一方、人口は 14 万人を超え、子育て家庭が増えています。8 年前 0.77 だった合計特殊出生率は、1.14 にまで上昇しました。保育所の数を増やすだけでなく、子ども一人ひとりが大切にされ、まちぐるみで子育てしやすいと実感できるコミュニティにしていこうと求められています。

今年、戦後 70 年の節目に立ち、あらためて平和の尊さを未来の子どもたちへ手渡していかなければなりません。私たちの願いとは裏腹に「いつでもどこでも戦争ができる国」にしようとしている現政権に対して、市民のみなさんとともに武蔵野から平和を訴えていきます。

大震災と原発事故から 4 年目の春。「競争と奪い合い」の社会に逆戻りすることなく、いまだ復興の途上にある方々と手を携えて、「共生と分かち合い」の持続可能な未来へ、ともに歩いていきましょう。



INFORMATION 講演会 「**集まれ！市民力** 支えあうコミュニティ 持続可能な未来へ」 山田真さん  
日時：4月12日(日)午後2時～／会場：武蔵野市民文化会館 第1会議室／弁士 山田真さん(小児科医) 内山さとこ(武蔵野市議会議員)

## あなたの😊笑顔😊にありがとう vol.2

「この国の再生の道を切り拓いていくためには、人任せにすることなく、国民一人ひとりが立ち上がって国に問いかけることが必要なのではないか、困難な時代に生きる次世代、後世のために、政治がこの国を間違った方向に向かわせないよう、しっかりと見張る必要があるのではないか」  
(鳥越俊太郎さんとの対談より)



昨年 11 月 28 日、菅原文太さんが亡くなりました。文太さんには、4 年間 43 回にわたり「外野の直言、在野の直感」と題した月刊「本の窓」(小学館)の対談がありました。連載を通じて、素顔の文太さんを知る編集長の岡靖司さんに、お話を伺いました。

**内山** 往年の映画スターとしての文太さんファンのみならず、晩年、脱原発や反戦のために行動していた文太さんへの共感、追慕があらためて広がりました。連載を始めたきっかけは？

**岡** 連載をお願いしたのは、文太さんが東京を離れて無農薬有機農業を始めた 2010 年から。超大物が、今なぜ、山梨に移住して農業を始めるのか、と関心をもったからです。翌年に東日本大震災、原発事故がおき、3.11 を経て、もともと抱いていた社会経済の現状への懐疑、不信が、より鮮明になり、具体的な発言や行動になって現れてきたように思います。

**内山** 対談相手となる「在野の達人」はどういう方針で選んだのですか？

**岡** 相手は、すべて文太さん本人の希望で、一切編集部は口を出さない、そういう約束で始めました。第五福竜丸の元乗組員の大石又七さん、ペシャワール会の中村哲さん、野口種苗研究所の野口勲さん、作家の澤地久枝さんなど、有名、無名にかかわらず、カネや権力におもねらない、いわゆる「在野」で活躍されている方ばかりでした。

**内山** 訃報が報じられたのは、ちょうど衆議院選挙が公示された 12 月 2 日。まるで、文太さんの魂が「この国の行く末を見届けてやる」と凄んでいるような気がしました。11 月の沖縄県知事選挙の翁長候補(現知事)の応援にも行っています。

**岡** 最後の対談は、亡くなる一ヶ月ほど前の 10 月 18 日。まさか、それが最終回になるとは…、いつもどおりの笑顔でした。最後まで、自分の信念を貫いて行動した、文太さんらしいです。妻の文子さんのコメントにもありました。「…無農薬有機農業を広めること、日本が再び戦争をしないという願いが立ち枯れ、荒野に戻ってしまわないよう、ともに声をあげること」その二つの小さな種を蒔いて去り、今も生者とともにこれらを願いつづけていると。訃報に接し、山口二郎さん(政治学者 2014 年 12 月号で対談)からは、「菅原さんの意思を引き継いでいく」というはがきが届きました。

**内山** 私を含め多くの方が、同じ想いだと思います。山口二郎さんは衆議院選挙の終盤、対談での文太さんの言葉を紹介していました。

「政治の使命は二つある。ひとつは国民を飢えさせないこと、もうひとつは戦争をしないこと。…本当は今の総理大臣が、戦争は、誰が、どんな理由で起こそうとも間違っている、と言わなければならない。日本は二度と戦争をしない、手助けであろうが絶対にしてはいけないと率先して言わなければいかに、いま逆の現象が起きている」と。

今こそ、「生者」である私たちが行動しなければと思います。ありがとうございました。



\*「本の窓」2015 年 1 月号が対談の最終回。過去の対談の一部は、書籍「ほとんど人力」(菅原文太と免許皆伝の達人たち 小学館)にまとめられています。

3 月の本会議に、「戦後 70 年の節目に自治体から平和を求める意見書」を提案しました。結果は 11 対 11 の可否同数、議長判断は「否」。子どもたちに平和を受け継ぐことに、議員の半数が反対するとは…市議会議員選挙は 4 月 19 日告示 26 日投票予定です。あなたの行動で政治を変えよう！ <http://satoko-uchiyama.mond.jp>